

松倉山あり

又おろけや桂の家の夏の暮る 長人

川一山徳むやれ

ほもふれ海に杜うに

とてく号てん歌その

名によりてくまあつ

夏海山一面の 押さるる 南交

各社鶴を海

子親家小志の八する夏海 狂徒

かともふれ 雲然さうりに鳴るが 芝葉

たしる雲に雲をさしよふ 能 菖菖

る竟の歌あやむ半の雨明り 玉袴

丙午 夏四月

越中 滑川